

1 研究主題について

(1) 研究主題

コミュニケーションを図る素地及び基礎となる資質・能力を培う小学校外国語教育
～豊かにかかわり 伝え合い 学び合う 学習の創造～

(2) 研究主題設定の理由

現在の社会は、政治・経済をはじめ様々な分野で情報化やグローバル化が急速に進展している。こうした社会を生きていく児童には、異なる文化や価値観を尊重し、多様な人々と協働する等、国際社会で生きていくために必要な資質や能力を身に付けることが求められている。さらに、将来の予測が困難な時代を迎え、学校教育には、児童が様々な変化に積極的に向き合い、課題を解決していく力や、多くの情報を見極め再構成するなどして新たな価値につなげていく力、また複雑な状況変化の中でも粘り強く目的を達成していこうとする意欲等の育成が求められている。

そうした中で改訂されたのが今回の学習指導要領であり、上記のような背景の下、持続可能な社会の担い手として、未来を切り拓くための資質・能力を育成することが基本的な考え方として掲げられている。その実現に向けて、知識・技能を既習のものと結び付けて、社会の中で生きて働く知識・技能として習得させるとともに、それらを活用して思考・判断・表現したり、どのように周りの人やものに関わるのかを考えたりすることができる能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と学習評価の充実が求められている。今回の改訂により、全教科において「何を学ぶか」という視点から「何ができるようになるか」という能力の育成へと大きな方向転換がなされ、「どのように学ぶか」という学び方についても言及されている。それが「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善である。

なお、今回の改訂における大きな柱の一つとなったのが、外国語教育の抜本的な改革であり、それを受けて、徳島県小学校教育研究会外国語部会の研究主題は「コミュニケーションを図る素地及び基礎となる資質・能力を育む小学校外国語教育」と設定された。

本校では、平成30年度からの移行期より、鳴門市内各小学校と同様に円滑な全面实施を目指し、中学年での年間35単位時間の外国語活動、高学年での年間70単位時間の外国語科を実施してきた。令和2年8月に、本校3～6年生児童に行った意識調査によると、「外国語活動、外国語科の授業が好き」「英語で自分のことを伝えることが楽しい」という項目において、8割以上の児童が肯定的な回答をしていた。しかし、上述した「主体的・対話的で深い学び」の視点から実践を振り返ってみると、授業の中で友達やALT、指導者等とのコミュニケーションを楽しみ、対話は生まれているものの、それが児童一人一人の深い学びにつながっているとは言い難いという実態がある。そこで、学びを深めるためには、多様な対話の場を設けるとともに、自分を振り返り、その中から自分にとって必要な情報を取り入れ、自己調整していく場面を

意図的に設定していく等，授業づくりの工夫が必要であると考えた。

こうした実態と社会背景を鑑み，徳島県小学校教育研究会外国語部会の研究主題を受け，本校では研究主題を上記のように設定した。

(3) 本校研究主題の考え方

① 「豊かにかかわる」とは

「豊かにかかわる」とは，「かかわる対象」と「かかわり方」その両面から捉えたものである。

「かかわる対象が豊か」とは，外国語活動・外国語の授業の中で，児童が様々な対象（「人」「もの」「こと」「言語」「文化」等）とかかわることを意味している。

「かかわり方が豊か」とは，児童が意図的，能動的にかかわることであり，他教科や生活体験の中から生まれた個々の体験とは，異なる視点から対象を見つめたり，触れさせたりすることを意味している。

このように「豊かにかかわる」ことで，児童の中に新たな気づきや発見が生まれるとともに，既有の概念の再発見や再構築につながり，一つ一つの学びが統合され，汎用性の高い確かな力が育成され则认为る。

そのためには，板東ならではの教育資源を教材化して外国語の授業に取り入れたり，他教科や生活経験の中で培われた，既有の知識や技能等を生かした教科等横断的な単元計画を立てたりすることが必要である。



【霊山寺でのお接待体験

（総合的な学習の時間）】

② 「伝え合う」とは



【留学生との交流】

「伝え合う」とは，「対話」を指す。児童がもっている知識や技能を活用して，様々な対象と対話することにより，情報だけでなく，それぞれの思いや考え，願いなどを共有することだと捉えている。

このように「伝え合う」ことで，児童が自他の共通点や違い，よさに気づき，互いへの理解が深まるとともに新たな関係性が構築され则认为る。このことが，個々の児童の視野を広げ，新たな学びにつながることを期待される。

そのためにまず必要なことは，児童の「話したい」「聞きたい」という思いが膨らみ，伝え合う必然性が生まれるような，目的や場面，状況の設定であり，指導者には児童の興味・関心を含めた実態の把握に努めることが求められる。また，授業に ICT を積極的に活用したり，ペアやグループ等様々な形態で交流する場面を意図的に取り入れたりすることも大切である。

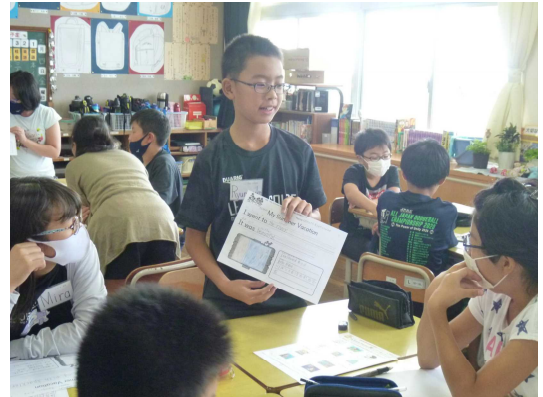
③ 「学び合う」とは

「学び合う」とは、「伝え合う」活動を通して「個々の学びが深まること」と捉えている。

先にも述べたように、対話を通して異なる考えに触れることが、児童が自分を振り返り、自らのよさや課題に気付く機会となるであろう。新たな課題に気付いた際に、自分にとって必要な情報や考え方を他者から取り入れ、よりよい学びに向かう姿を期待する。

そのためには、児童が思考し、自己調整を図れる場の設定が必要である。一人の学びを全体に広げ、学級全体で共有する際には、指導者の言葉かけ等の適切な支援も求められる。

このような学び合いの場を通して、児童は友達と共に学ぶよさを実感するとともに、さらに個々の学びを深めることができる考える。



【グループでの活動】

上記に示した3つの活動は、個々が独立したものではない。1時間の授業の中で、単元を通して、あるいは他教科とのつながりの中で、相互に関連し合いながら新たな学びへと向かっていく力となるものである。学び合った経験をもとに、さらに新しいものとかかわりたいという意欲が生まれるだろう。そこでは自分で学んできたことが生かされ、かかわりがより豊かになると考えられる。

このような学習を創り上げていく過程には、ともに学び、ともに伸びようとする学習集団があり、学級経営が基盤となっていることは言うまでもない。本校では、外国語教育を中心とした教育活動全体を通して、豊かにかかわり、伝え合い、学び合う学習を創造していくことで、様々な人とコミュニケーションを図る素地及び基礎となる資質・能力を培っていききたい。

2 研究構想図

板東小学校外国語教育 研究の構想

